令和元年度 第２回公社等運営評価委員会　議事要旨

１　日　　時　　令和元年８月６日（火）13：00～14：35

２　場　　所　　兵庫県庁２号館２階参与員室

３　出 席 者

⑴ 委　員　　佐竹委員長、勝沼委員、河上委員、中尾委員、藤本委員

⑵ 兵庫県　　企画財政局長、新行政課長、新行政課副課長

４　議事要旨

⑴ 個別団体ヒアリング①［（社福）兵庫県社会福祉事業団］

公社及び県関係課から、リハビリテーション病院の運営上の課題と対応や新・万寿の家における先端機器を活用した介護プログラムの展開や障害者総合トレーニングセンター等の新規開設施設での新たな事業展開についての説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① リハビリテーション病院の運営上の課題と対応

○　指定管理料の減額が続いている中で、介護職や医師の確保にあたって、どのような工夫をしているのか。

→　職員募集にあたっては全国を回っており、できるだけ採用の機会を増やして、職員を確保している。OT・PT 等の専門職については、先導的な施設である福祉のまちづくり研究所などの魅力を発信し、職員の確保に取り組んでいる。また、医師については、特に神戸大学と連携し、医師を派遣してもらうことで、医師確保に努めている。

○　病院の費用の削減については、収支の改善で限界が近いところもあると思うが、さらに改善できる余地はあるのか。また、改善事例の情報共有や、コンサルを入れた見直しなどは実施しているのか。

→　県立病院局の会議において、各病院の取組事例の情報共有を行っており、活用できる取組は取り入れることに努めている。また、例えば費用の削減においては、コンサルを入れ、全国同規模病院の診療材料の価格情報を参考に、できるだけ安価な価格に近づけられるように交渉を行っている。

○　施設利用の満足度は調査しているのか。

→　外部の評価機関による評価を定期的に実施しており、結果をホームページに

掲載している。また、家族を対象としたアンケート調査も年１回ほど実施している。

②　新・万寿の家における先端機器を活用した介護プログラムの展開や障害者総合トレーニングセンター等の新規開設施設での新たな事業展開

○　県内特養のトップランナーとして、介護ロボット機器の導入及びこれに伴う介護技術の普及推進という柱を立てているが、どの辺りまで目指しているのか。また、神戸市の医療産業都市にある企業と連携している取組があると思うが、今後の展開をどのように考えているのか。

→　福祉のまちづくり研究所と連携しながら、介護ロボット機器や AI を施設に入れて、関西初の介護ロボット機器の導入や技術の普及促進に取り組んでいく。また、去年、福祉のまちづくり研究所に次世代型住モデル空間をオープンしたため、この施設を活用し、神戸市の医療産業都市にある医療福祉系の企業と連携し、福祉機器の研究開発に取り組み、有用な機器は施設に取り入れる等、今後も、神戸市の医療産業都市の取組と連携しながら、よりリーディングリーダーとしての役目を果たしていきたい。

○　万寿の家の介護ロボット機器等の導入において、定量的な効果を数値化し、効果的なＰＲに取り組むこと。

→　例えば、ベッドから降りる際に骨折という事象が多いが、介護ロボットを入れたことによる事象の減少など数値化して発信していきたい。

○　新たに開設する障害者総合トレーニングセンターを、障害を持ったアスリートに活用してもらえるように PR をしていくことが大事である。

→　東京 2020 パラリンピックやワールドマスターズゲームズ 2021 を契機に、障害者や企業等にＰＲし、裾野を広げつつ、施設の活性化を図っていきたい。

○　導入効果について、AI や IoT による省力化、設備投資、人材確保、事故の減少など、要素をプログラム化するとわかりやすいと思う。新万寿の家は、兵庫県としては初めの CCRC（Continuing Care Retirement Community）であることから、兵庫県内のモデルケースとして取り組んでいくこと。

⑵ 個別団体ヒアリング②[但馬空港ターミナル（株）]

公社及び県関係課から、コンセッション契約更新に向けた空港運営の効率化への取組や定期便の利用率向上や空港の賑わいづくりに向けた取組についての説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① コンセッション契約更新に向けた空港運営の効率化への取組

○　マンパワー不足が往々にして問題になるが、その問題を解消するため、地元 NPO の力を借りることや、但馬地域や空港の活性化に興味のある人や企業と協力するなど、外の力を借りることも考えて欲しい。まだまだやれることがあると考える。

② 定期便の利用率向上や空港の賑わいづくりに向けた取組

○　北近畿自動車道路が伸びて定期便の利用状況は変わったか。

→　これまでに、和田山 IC まで供用した直後に定期便搭乗者数が減少したが、一時的なものだった。現在、日高神鍋高原 IC まで供用しており、2020 年度中には空港と直結する豊岡南(仮称)IC まで繋がる予定と聞いているが、豊岡(仮称)IC が供用されても、豊岡市街まで約 15 分程度の短縮にしかならないことから、航空機利用者に与える影響は一時的なものと想定される。

○　空港の賑わいづくりとして、道の駅などのように飛行機に乗らなくとも、地域の方々や観光客が特産物などを買うマーケットまたは食事に行くような場所にするなどの計画はあるか。

→　現在、空港の隣に但馬牛や海産物を出す空港レストランがあり、定期便利用者や空港見学者に利用していただいている。また、時間のない方のためには、空港ロビー内に軽食がとれる喫茶店を設置しており、共に外部事業者が営業している。買い物については、但馬の物産を空港ロビー内の売店で販売しているが、海産物や生鮮物は設備が必要になるので販売は難しい。また、TAC には物産品販売に関するノウハウがないため、今年はまず物産市の開催に取り組みたい。

○　特に外国人観光客の航空機利用のニーズはあると思う。城崎温泉に行くのに、飛行機に乗ることや空路で入る楽しみを演出できれば、利用者の増加が期待できる。小型航空機の誘致については、航空機事業者に利用の判断を委ねるような営業ではなく、こっちから仕掛ける取組を検討すること。

○　但馬の豊富な観光資源を活かすため、空港に来てからの利用案内を充実させること。また、空港から城崎までのレンタカーとのパッケージなど、旅行会社が斡旋できるようなネタ作りを空港でも取り組んではどうか。物産展についてはニーズがあると思うので、飛行機会社の物流機能を活かして取り組むこと。

○　京丹後から空港まで車で１時間ほどの距離であれば、京丹後地方に需要があると思われるので住民へＰＲをすること。旅行会社にも京丹後への旅行は但馬空港から入る案を PR すること。また、物産市について、収益をあげるのであれば、常設か定期的な開催が必要だと思う。今年実施する物産市は、民間との連携を考えているのか。

→　現在計画している物産市への出品は、地元食材を扱う日高町の民間の団体に

お願いする予定である。また、物産展の常設については、今年度にロビーのレイアウト変更を実施する予定であり、その中でご意見を参考に検討したい。

○　今のところ目標である利用率７０％には至っていないが、目標達成時期の期限は設定しているか。定期便利用者のうち羽田からの乗継者は１／３程度の一定の利用があり、羽田直行便の実現にあと一押しなのではという印象であるが、あと一押しに何がいると考えているか。また、平田オリザ氏が豊岡市を演劇のまちとして積極的に全国発信していることから、この機を逃さず活用してもらいたい。

→　強い地元の要望であるが、但馬空港ターミナルとしては目標達成の期限を設定しているものではない。

羽田直行便の実現には３つの課題があると認識している。

①運航事業者の確保（現滑走路長 1,200m ではジェット機が降りられず、航空会社は小型機専用の設備投資が必要となり、投資に見合う需要が見込めないとして、就航への理解を得るのが難しい。）

②羽田発着枠の確保（羽田は過密空港であり、プロペラ機の発着枠の確保が困難。政策コンテスト枠(３枠)があるが、自治体と共に応募提案する航空会社が必要となるなかで、今のところ賛同する会社がいない。）

③羽田－但馬便の需要確保（現在、羽田乗継者は１／３程度はいるが、更なる実績を航空会社に示すことで、応えていただけるような機運醸成が必要である。）

○　但馬－羽田便の実現に向けた取組だけではなく、生活圏である関西圏とを結ぶ伊丹－但馬便の利用促進に向けた取組にも引き続き取り組むこと。